

1. 単元名 「Lesson5 : Saving Our Treasure from the Sea」

2. 単元の目標

○地理的・文化的にも離れたイタリアのヴェニスと日本の厳島神社の共通点、どちらも海上に建てなくてはいけなかった文化的・歴史的背景、そしてあらゆる水害に対してそれぞれが行ってきた手法など、本単元を通じて学び、他者に伝えられるようにまとめることができる。

(知識及び技能)

○過去のニュースや実際に水害を経験している世代の方へインタビューをすることで、当時の対策や今後の課題について、概要や要点を把握し、その内容を基に意見共有や感想を伝えあったりすることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

○自分の地域のハザードマップや建造物の構造に興味を持ち、自ら調べようとする姿勢を持ち、得た知識や情報を伝えることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、世界遺産のヴェニスと厳島神社を扱っており、2つの共通点やそれぞれの時代背景だけでなく、水害対策についてまとめられている。私たちの暮らしている千葉県は、令和元年に非常に深刻な水害の被害を受けた県であり、水害は私たちの生活と大きくかかわっていると言える。そこで、教科書の題材は決して教科書の出来事ではないという当事者意識を持たせ、自分事として捉えさせ、活動させることができる教材である。

(2) 生徒観

対象の生徒は、1・2年次の総合的な探究の時間でSDGsについて詳しく学び、学年でプレゼンテーションを実施したり、講演会やクイズなどを通して着実にSDGsの知識を身に付けた。また英語学習においても、教科書の題材がSDGsに触れているものが多いため、SDGsへの関心の強い生徒が多い学年である。

担当クラスは、活発な生徒が多く、ペアワーク・グループワークでの活動に積極的に参加する姿が見られ、意欲の高い生徒が多い。また、わからない問題をわからないままにするのではなく、教員のみならず生徒同士で学び合う姿も見られる。

本単元から水害について学び、自分が暮らしている周辺地域でも起こりうる水害に関心を持ち、自分たちの活動から地域に貢献するという意欲が高まることが期待される。

(3) 指導観

本単元の指導に当たって、近年の気候変動や開発による環境破壊が世界各地の世界遺産に影響していることで、先人の残した遺産を守り続けられなくなる恐れがあることを教科書本文の内容を通じて感じてもらいたい。その対策の1つとして、イタリアのヴェニスと日本の厳島神社の水害対策に着目し、自分たちの暮らしている千葉県という地区と比較した際、私たちの文化的・歴史的遺産を守り続けることができるのか、私たちには何ができるのかを考え、うえて実践していける場を整える。

英語科の指導として、文章読解を通して、調べる・まとめる・共有するという3つの流れを作り、文章を読み解き調べる力[読むこと]、自分の意見をまとめる力[書くこと]、自分の意見を話す力[話すこと(やり取り)(発表)]、相手の意見を聞く力[聞くこと]の4技能5領域の指導を行う。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

・多様性

ヴェニスと厳島神社、そして自分たちが暮らしている地域によって、水害を防ぐ方法はさまざまであり、その土地特有の文化や歴史に適した考えがあることを学ぶことができる。

・連携性

自分と同じ地域に住むクラスの人たちをはじめ、他地域や他国にルーツのある人々、さまざまな職場を経験してきた教職員と意見共有することで現状を把握し、災害の危険性について学び、自分事化することができる。

・責任性

水害をはじめとしたさまざまな災害の知識をつけ、学生から年配の方、外国の方などにつながるための活動とすること、そして自分自身が関わっているという責任感を持つことができる。

本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・未来像を予測して計画を立てる力

災害に直面した際、落ち着いて行動するための術を身に付け、計画的に行動することができる。

・多面的・総合的に考える力

土地や歴史・文化、建造物などによって、それぞれの水害対策を知り、自分の暮らす町のために考えることができる。

・進んで参加する態度

世界遺産について関心を持ち、自ら学び、知り、発信することができる。

本学習で変容を促す ESD の価値観

・世代内の公正

自分たちだけでなく、後世にも地域の水害についての知識を伝えていく。

・人権・文化を尊重する

世界遺産を通して、歴史や文化の大切さを知り、守っていく。

達成が期待される SDGs

- 1 3 気候変動に具体的な対策を
- 1 6 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
○ヴェニスと厳島神社に関する英文から、内容や単語、文法を整理し、要点をまとめている。	○ヴェニスと厳島神社に関する英文を読み、自分の意見や考えを論理的に書いたり話したりして伝えている。	○ペアワーク・グループワークを通して、相手に英文の内容を分かりやすく伝えようとしている。

5. 単元の指導計画（全8時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
1 ヴェニスと厳島神社 ・教科書の本文にある「ヴェニス」と「厳島神社」の関連性を知るうえで、クイズを使った導入をする。 ・「ヴェニス」と「厳島神社」は水（水害）が関連していることを把握し、より具体的に知識をつけるうえで、自分の住んでいる地域では水（水害）とどの程度関係があるのかを学びながら本文の内容を自分事化する。	○ヴェニスや厳島神社以外の写真も活用し、すべての場所の関連性を考えさせる。（その中に学校の周辺地域の写真も取り入れる。） ○水害の話から、自分の住んでいる地域のハザードマップを見て水害が自分たちの生活から遠いものではないことを理解させる。	ウ 主体的 ア 知・技 イ 思・判・表
2 本文内容理解（ECⅢ） ・Part1の内容「2つの場所の関連性を知る」 3 本文内容理解（ECⅢ） ・Part2の内容「水害が起こるとしてもそこに建てるに至った文化的・歴史的背景を知る」 4 本文内容理解（ECⅢ） ・Part3の内容「ヴェニスの具体的な水害対策を学ぶ」 5 本文内容理解（ECⅢ） ・Part4の内容「厳島神社の具体的な水害対策を学ぶ」	○教科書、ワークシートを活用し、Reading 活動、Writing 活動を主として知識を深めさせる。またポイントとして、各 Part ごとに自分の暮らしている町と比較する Topic を与えることで、具体的なイメージを持たせるようにする。 例：Part1 関連性 Part2 文化・歴史的背景 Part3&4 水害対策	ア 知・技 イ 思・判・表 ウ 主体的

<p>6 自分達にできる水害対策を考え、共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～5で学んだ本文内容を活かし、自分たちの暮らしている地域の現在行っている対策と自分達だからこそできるこれからの対策を考え、共有する。 ・日本在住の海外の方に向けたピクトグラムを用いた看板作りの準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業で学んだ知識とは別に、インターネットや教職員へのインタビューを重ね、より深めた知識を共有する場を設ける。(授業外での活動については、2～5の授業ごとに進捗状況を見て宿題を提示することでスムーズに執り行うことができる。) ○自分たちにできることで出た案のうち、「ピクトグラムの作成」を授業内で行うようにサポートする。 	<p>ア 知・技 イ 思・判・表 ウ 主体的</p> <p>ア 知・技 イ 思・判・表 ウ 主体的</p>
<p>7 ピクトグラムの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有したことをもとにオリジナルのピクトグラムの絵と案内表記を英語版で作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人で作成し、ペアワーク・グループワークを通して共有する。また、完成したピクトグラムは校内の掲示板に掲示したり、高大連携をしている大学の国際学部に配布したりする。 	<p>ア 知・技 イ 思・判・表 ウ 主体的</p>
<p>8 ピクトグラム作成の振り返り及び本文内容復習 (ECⅢ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示板の反応や高大連携先での反応を共有し、自分たちの活動を総合的に振り返る。 ・教科書やプリント、ワークなどを通して、ヴェニスと巖島神社のエピソードを確認し、小テストや定期考査で点数が取れるように学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各反応を共有することで自分たちの活動には意味があることに気づき、より地元、日本全国、世界について興味を持つことができる。 ○授業内で扱う最後のパートなので、内容理解にフォーカスして終える。 	<p>ア 知・技 イ 思・判・表 ウ 主体的</p>

6. 成果と課題

本学習指導案は、2025年度に実践したものを振り返り、改良したものである。

2025年度の実践における成果として、第一に外国語科におけるESDとの連動性の認識、第二に課題解決における協調性、責任感の重要性の再確認についてである。

第一に外国語科の諸活動において、言語学習というプラットフォームの中から得られた社会的・歴史的・文化的な知識を「英語を活用して伝えていくこと」にESDとの連動性に大きな可能性を感じた。例えば、教科書を主体で進める内容理解や英単語・文法の学習は家庭でもできる内容であり、個人でも進めることが可能である学習内容でもあるため、批判的に考える力や仲間との協力で得られるコミュニケーション能力など、ESDの実践で得られる項目に該当させるのには非常に難しい問題となっていた。しかし、昨今の外国語教育では4技能5領域を念頭に置いた、より実践的な教育が求められるために、「伝える」ことにもフォーカスがしやすい。そこで今回はその「伝える」部分に注力した結果、他者と

の意見共有や実際に作成した防災カードを通して他者に自分の考えを伝え、理解し学び合う姿勢が生まれたと考える。

第二に課題解決について、実際に起きた事例のみならず、場面ごとに個人・グループで考える時間を設けることやALTを含んだ多くの教員にインタビューをすることでより知見を広げ、事実と理想を照らし合わせることで、課題を自分事化させることができたと考える。また、教科書の内容にとどまらずに自分たちの暮らす地域を含めることで、自分たちには何ができるのか、自分たちには何ができるのかという問いを頭に植え付けることで、一つ一つの意見に責任感が出ていたと感じた。

今回の実践を通して得た課題として、「ESDを含んだ外国語教育の実践」を考えることの難しさを感じた。気が付けば「外国語教育を含んだESDの実践」と捉え、そのまま進めてしまい、結果としては外国語教育でなくてもできる実践なのではないかという疑問が色濃く残ってしまった。特に、今回は英語版の防災カードを作成したのだが、そもそも総合的な探究の時間でも実践が可能なトピックであり、他者に伝えるという観点も十分な結果を残すことはできなかった。また、時間という制約に縛られているにしろ、最終的に教科書の内容理解や英単語・文法と諸活動は分断されて進んでいたのではないかと考えた。

この実践結果から一つの別の案として、防災カードの作成を変更し、ピクトグラムを作成することを想定した学習指導案に切り替えた。ピクトグラムの作成は、最終的に完成した作品を校内の掲示板に張り出すことも可能であり、使用するデバイスによってはデータ共有で高大連携で連携している大学へ送付して、留学生から意見をもらうことで意見共有と活動の幅を十分に広げることができたのではないかと考える。

これらの実践結果を基に、外国語科におけるESDとの連動性の認識、課題解決における協調性、責任感の重要性の再確認をすることができた。この実践結果をこれからの諸活動に活かし、今よりも大きな活動をしていくための手段としたい。

現在の学年終了時に目指す姿

実際に千葉県内で起きた水害を教科書の内容であるヴェニスと巖島神社の水害と比べ、友人や教員と意見共有することやALTにインタビューをすることで水害に対する知識を深め、自身の考えをまとめ発信できる力を身に付ける。



総合的な探究の時間「防災学習」
毎年実施する防災訓練や、担当教員による防災講話、各HRで実施する防災クイズ、シェイクアウト訓練などを通して、日本が災害大国である認識と、日頃から私たちは備えができているのかを確認する機会を設けることで、自分たちの命は自分たちで守ることの意識づけをする。

実際に地震の影響で水害につながるケースがあるのか。もっとよく考えて訓練に望むべきだ。

English Communication III
「Lesson5 : Saving Our Treasure from the Sea」
○主に養いたい ESD の資質・能力
・世代内の公正
自分たちだけでなく、後世にも地域の水害についての知識を伝えていく。
・人権・文化を尊重する
世界遺産を通して、歴史や文化の大切さを知り、守っていく。

高大連携「在留外国人の日本での生活」
国際学部のある大学と連携することで、日本で暮らしている留学生から話を聞く機会を設けることができ、周辺地域の危険な場所や、標識・看板から得られる情報を留学生から見た情報を共有することで新たな発見をすることができる。

在留外国人の方が生活に困っていることを何か手助けしたい！

美術Ⅲ・書道Ⅲ「ポスター・標語制作」
3学年の選択授業である美術Ⅲ・書道Ⅲの授業で、ポスターと標語を各々が制作する。毎年、美術では自由課題としてポスター制作が出されていることと、書道においても自分の好きな言葉を書き記すことがわかっているので、連携を図り、各作品の展示と評価をしていただく。また、選択科目は自由度が高いので、ほかの選択科目の生徒にも見て評価してもらうことが可能である。

懐かしい！実際に見たときはすごいで終わったけど、実はこんな歴史があったのか！

表現の仕方は絵や文字など自由だけれども、目指すべき姿は1つに向かっているんだ！

修学旅行「巖島神社」
実際に現地を訪れたことがある経験から、本文の内容理解を十分にすることができ、他者との意見共有においても十分な話し合いが出来る想定する。また、ネットに上がっている写真ではなく、実際に自分たちが撮影した写真を使用することによって、改めて見るべきポイントを実際に自分は見ていたんだという気持ちにさせることができる。